

●京都文化博物館

<p>前回検証結果</p>	<p><b>継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の利用者拡大に向けた取組を更に進めつつ、特に大きな収益源となっている特別展以外の常設展を工夫するなど、更なる取組の検討を行うこと。</li> <li>・フィルムシアターについては、映像資産として価値あるものことから、関係団体とも協力の上、アーカイブ化の仕組みについて検討すること。</li> </ul>
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3階フロアを広く使い、既存の展示区画にとらわれず、特別展と連動した展示（特別企画展）を実施。</li> <li>・メディア芸術、工芸美術、学校資料等、工夫した展示を他機関と連携して行い、入場者数が増加。</li> <li>・映像、映画関係団体と協力し、ワークショップ等を通じて、アーカイブ化技術の人材育成を行うとともに、フィルム及び資料のアーカイブ化の取組を実施。</li> <li>・アーカイブ化した映像を文化博物館で開催される映画祭で上映することで、その重要性について広く世間に周知。</li> </ul>
<p>取組の結果</p>	<p>◇総合展の入館者数は増加傾向  H29：69,220人、H30：74,213人、R元：66,780人  （※令和2年3月は、ほぼ休館のため、実質11箇月間）</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆児童・学生など若い世代の利用は限定的（40歳未満の利用者：約20%）。</li> <li>◆一部施設（和室貸展示室、ろうじ店舗）の利用度が低迷。</li> <li>◆H28以降の利用者数は、ピーク時（H26：965千人）から約20%以上減少。</li> </ul>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□年齢に関わらず、誰もが京都の文化をはじめとして様々な文化を楽しめる企画や物販・飲食の機能強化等で来場者を増やし、京都観光のゲートウェイとして府民も観光客も気軽に立ち寄れる施設を目指すのはどうか。</li> <li>□立地や建物の良さから、収益性を更に向上する仕組みに改善できないか。</li> <li>□文化施設として、専門家の育成もミッションであり、学芸員などの人材育成についても課題意識を持って取り組まれないか。</li> <li>□一階ろうじ店舗の見直しや別館ホールの更なる活用など一層の利用向上を期待したい。</li> </ul>

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;"><b>継 続</b></p> <p>◎博物館として誰もが楽しめる施設を目指し、企画展の工夫や利用率が低いスペースの改善により、幅広い利活用を図り、収益性の向上を図ること。</p>
	<p>&lt;今後の対応&gt;</p> <p>○常設展・企画展ともに、より分かりやすく魅力的な展示とともに店舗など利用率が下がっているスペースの効果的かつ効率的な利活用について検討する。</p>